

## ご挨拶



滋賀県立大学工学部長 南川久人

湖風会「工学部学友会」第四回総会の開催を心よりお慶び申し上げます。滋賀県立大学工学部を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。おもに前回の2016年11月の第三回総会以降の出来事を中心に、工学部のトピックスを紹介させていただきたいと思っております。

本工学部は、材料科学科、機械システム工学科、電子システム工学科の3学科体制で、毎年約150名の新入生を受け入れ、約150名の卒業生を輩出しております。大学院のほう（工学研究科）は、前期課程には材料科学専攻、機械システム工学専攻、電子システム工学専攻におきまして各学年約60名程度が在籍し、後期課程・先端工学専攻には現在7名が在籍しております。また、学部内にはガラス工学研究センター、附属実習工場が設置されていますが、これに加えて2017年4月に新たに「地域ひと・モノ・未来・情報研究センター」が開設いたしました。教員は、両研究センターの担当教員各1名も加えて、3学科が各16名ずつ、合計ちょうど50人体制で教育・研究を行っております。

「地域ひと・モノ・未来・情報研究センター」はICT（情報通信技術）で地域課題に取り組む研究拠点として活動しており、本学の他学部それぞれの特色を活かしたスマート農業（これは主に環境科学部とのリンク）、スマート看護（これは言うまでもなく人間看護学部とのリンク）、スマート観光（これは、人間文化学部とのリンク）の分野で、工学部教員、特に電子システム工学科の情報関連の教員が中心となり、他学部教員、地域企業、自治体等とも連携しながら研究を行っており、研究成果も出てきつつあります。2018年3月には「成果発表シンポジウム」を開催し、現状報告の後、研究成果報告を4件、ショートプレゼンテーションを6件報告させていただきました。今後も成果を公表しつつ、地域の諸課題にICTで取り組んでいく予定です。

また、2018年4月から、大学院副専攻ICT実践学座“e-PICT”が開講しております。受講生がICT手法による種々の課題解決能力を身に付けるために、数理モデル・情報解析能力の修得や、地域産業・地域課題解決へ向けた社会人養成・学び直しなどを担い、地域のICTの中核を担う人材の育成を目指しています。初年度の2018年度は、社会人1名、大学院生20名が受講し、勉強を進めています。

工学部では、学部内の教員交流と地域のモノづくり関連企業や学生への研究紹介を兼ねて、2016年度より工学部研究交流会を秋に開催しています。2017年度には工学部教員41名、学生139名、モノづくり関連企業から38名、工学部以外の学内教職員も7名ご参加いただき、総勢225名の参加者となり、大変盛況で開催できました。

さらに、工学部と産業界との交流につきましては交流事業、「県大テックサロン」を2017年度より始めております。サロンは、3学科から研究内容に関連する研究分野を4～5分野ずつ集めて組み合わせたもので、「物質創生サロン」、「機能創生サロン」、「エネルギー環境サロン」、「情報応用サロン」の4つのサロンが活動しております。2017年度は、各サロンが交流事業を1件以上開催し、また秋の滋賀県立大学新シーズ発表会では、「物質創生サロン」がシーズ発表を行いました。2018年度の滋賀県立大学新シーズ発表会では「機能創生サロン」が発表予定です。

卒業生の進路につきましては、ここ数年就職状況が好調で、早い段階で希望の就職先に内定する4年生が増えております。就職率も学部平均で2013年以降、95%を超えています。大学院への進学も、他大学への進学者を含めて4割～5割で推移しています。大学院生の就職はさらに好調で、2014年度以降、前期課程3専攻とも100%の就職率を継続しております。

工学部のここ数年の状況を中心に紹介させていただき、工学部長からの挨拶に代えさせていただきます。これからも滋賀県立大学工学部は、「工学部学友会」と連携を密にして、さまざまな取り組みを行っていく所存ですので、今後ともどうかよろしくお願い致します。